余田地区史『余田よもやま話』発行にあたって

【発起】

旧余田村役場として昭和１１年に建築されて以来、８０年以上余田地区の住民に親しまれた余田公民館の建物が平成２９年９月にその役割を終え、市役所出張所、公民館及び余田簡易郵便局が余田小学校校舎へ合築移転した。この変化を前にして、地域の来し方を振り返り、かつての暮らしのすがたや、今現在の生活の基盤を作り上げた先人の歩みを記録した余田地区史『余田よもやま話（※)』として編纂することを企画した。

（※）よもやま話（四方山話）とは、「世間話」「様々な話題の話」を意味する言葉で、「四方山」には「世間の様々なこと」という意味があり、色々な方向へと話題が移り変わり、ワイワイと会話をしている状況で使用します。

【経過】

平成２６年度、２７年度、２８年度に公民館教室として余田の旧跡や歴史を学ぶ講座を開催しており、その講座参加者及び寺社関係を中心に有志による「余田地区史編纂委員会」を発足し、平成２８年７月に第１回編纂会議を開催した。以降、委員の異動もありながら、第６回まで編纂会議を開催し、委員が各自原稿素案や資料を持ち寄り、検討を行った。委員各位の記憶も貴重な資料であり、席上の会話から収集する事柄が多々あった。また、第４回の会議では、年配の方々のお話を聞く座談会を開催した。

【編纂の主旨】

当地区には往古より人々の営みがあり、連綿たる歴史がある。その中で、このたび編纂する地区史『余田よもやま話』の内容は明治以降を主とし、わけても昭和以降の直近百年のことを特に記すこととした。現在の地域の姿を作り上げてきた幾多の事業がどのようになされたか、また今に至る人々の、この場所における営みの有様を記録することで、郷土への愛着と先達への感謝の心を育むものとしたいと考えてのことである。

なお地区史とは言うものの、専門的な識見者の監修や時代考証の確認も行っておらず、口伝の情報や個人の記憶といった正式な記録に残りにくい内容も、本書においては重要な構成要素となっている。そのため、『余田よもやま話』と題し編纂することとした。根拠の不確かな部分も散見されると思われるがご容赦願いたい。

最後に、編纂にあたり、資料が乏しく調査困難なものや、記録等が不十分なものもございましたが、現段階での余田地区内の歴史文化の掘り起しと伝承のため、ご尽力頂いた編纂関係者各位に心から感謝の意を表します。

２０２１ 年 ４ 月

余田地区コミュニティ協議会長　　下 土 井　進